

人間らしく働くための2023宮崎宣言

それぞれの声と体を光らせて人は働き鳥ははばたく 大口玲子(歌人)

性差別の解消、ジェンダー平等は、誰もが個人として尊重され、基本的人権が保障され、人間らしく働くことができるために必要不可欠な世界共通の課題です。国連が2030年までの達成を目指すSDGs(持続可能な開発目標)の1つであると同時に17の目標すべてに必要な手段と確認され、すべての人の健康の達成に取り組むWHO(世界保健機関)も、すべての人のディーセント・ワークの実現に取り組むILO(国際労働機関)も、中心的課題と位置づけています。

日本は、2023年、男女の賃金格差の大きさや女性の管理職の少なさなどからジェンダーギャップ指数(男女平等度)ランキングでさらに後退して146か国中125位と過去最低を記録し、女性が働きにくく、女性の就業率の上昇にもかかわらず真の社会参画が進んでいないことを指摘されました。

世界が、先進国日本のジェンダー不平等にとりわけ注目する2023年の11月18、19日の両日、私たちは、宮崎市において、「性差別と人間らしく働く権利～ジェンダー平等社会を一緒に創ろう!～」をテーマに第33回人間らしく働くための九州セミナーを開催しました。九州セミナー史上初めてジェンダー平等を正面に掲げて取り組み、九州・沖縄を中心に現地とオンラインとで550名の参加を得て学びと交流を深め、成功裏に幕を閉じました。

1日目の水無田 airflowさんの記念講演『『居場所』のない男、『時間』がない女～『時空の歪みを超えるために』私たちができることを考える～』では、先進国一高負担を強いられている母親の家事育児負担の軽減と男性の片働きモデル前提の職場慣行の見直し・家計負担の軽減をはかり、ケアワークを再編し、働き方・暮らし方を総合的に見直すことが提案されました。パネルディスカッション「ジェンダー平等社会を私たちの手に」では、5名のパネリストによって、家庭、職場、教育など各分野におけるジェンダー不平等の現状と背景、解消のための歴史的国際的取り組みや身近な実践例が紹介され、人権と平和を大切に社会の実現にジェンダー平等が欠かせないことを確認しました。2日目の角田由紀子さんの記念講演「職場におけるハラスメント ジェンダー平等を阻むもの」では、性被害の告発に困難を強いられてきた歴史、制約されてきた闘いの手段、セクシャルハラスメントに象徴される女性に対する暴力を生み出す家父長制の影響と社会構造が示され、ハラスメントを根絶するためのILO190号条約の批准とジェンダー平等を求めることの重要性が示されました。分科会報告は、九州・沖縄各地から66演題が寄せられ、「ハラスメントのない職場をめざして」「多様性を尊重できる職場づくり～性的マイノリティの視点から考える～」など8つの分科会に分かれて人間らしく働ける職場づくりや働く人々の健康を守る取り組みの経験を大いに交流しました。

宮崎現地実行委員会は、今年2月の結成以降、3回の実行委員会で学習企画を持ち、テーマへの理解を深め、私たちの足元からジェンダー問題を考えるため「性差別・ジェンダー平等」アンケートを実施し、「準備過程を大切に」「学び、調査し、行動する」九州セミナーの歴史を受け継ぎ、実践してきました。そして九州セミナー運動を歴史的に支えてきた団体はもとより、テーマに共感した幅広い個人・団体の参加と協力を得て、民主的な議論を重ね広報や運営でも創意工夫を凝らし、新たな風を吹き込みながら九州セミナー運動を大きく発展させました。

私たちは、人間らしく働く権利、健康権の実現を目指すこれからのあらゆる取組みに際し、固定的性別役割分担意識に基づく偏見や慣行の除去に努め、ジェンダー平等の視点を取り入れることを確認し、各職場・地域での活動を飛躍させ、来年の大牟田大会に成果を持ち寄ることを誓い、宣言とします。

2023年11月19日

第33回人間らしく働くための九州セミナー in 宮崎